

ストーブ火災を防ぐポイント

- 外出時や就寝時は必ず消す
- 周囲に燃えやすいものを置かない
- 布団やカーテン等を近くに置かない
- ストーブの上や近くで洗濯物を乾かさない
- 給油は必ず消してから行う

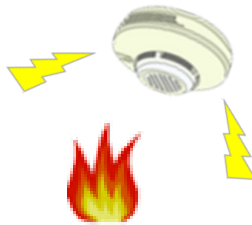


ストーブ火災に備えて…

住宅用火災警報器を全ての居室・台所・階段に設置しましょう

住宅用火災警報器の設置により火災の拡大を防いだ事例

バスマットを電気ストーブにかけておいたが、何らかの原因でストーブのスイッチが入り、火災となりました。住宅用火災警報器の鳴動により、火災に気づき、119番通報と消火器による初期消火を実施し、火災の拡大を防ぎました。



寝具類やエプロン、カーテンなどは防炎品にしましょう

防炎品の寝具類の使用により延焼拡大を防げたかもしれない事例

女性（60代）がベッドの近くで使用していた電気ストーブに、布団等の可燃物が接触し、火災となりました。この火災で、住宅は全焼し、女性は命を落としました。



（防炎製品貼付のラベル）

問合せ先

東京消防庁 防災部 防災安全課 電話番号 03-3212-2111 内線4196

令和3年10月発行

STOP! ストーブ火災

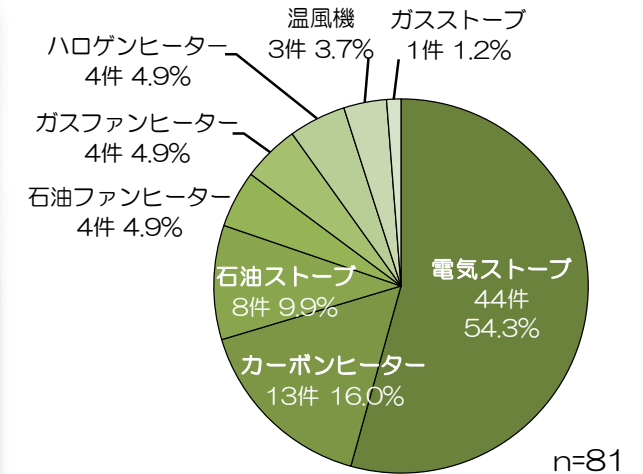
東京消防庁

あらゆる器具で発生するストーブ火災

- 令和2年中、東京消防庁管内において、ストーブを出火原因とする住宅火災が81件発生しました。
- 電気ストーブ、カーボンヒーター、石油ストーブ等、様々な器具が原因で火災が起きています。特に**電気ストーブによる火災は半数以上**の44件で、高い割合となっています。



電気ストーブに洗濯物が接触し焼損した状況

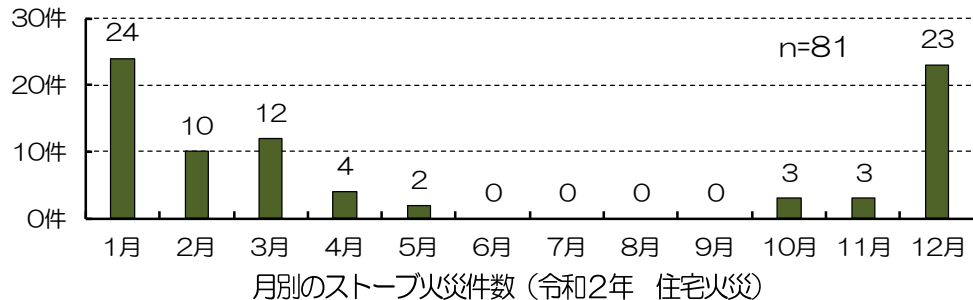


出火原因ストーブの内訳
（令和2年 住宅火災）

ストーブによる火災の発生状況は次のページをご覧ください。

寒い時期を中心に発生！

- ストープ火災は、**12月から3月まで**の寒い時期を中心に発生しており、肌寒い季節にも注意が必要です。

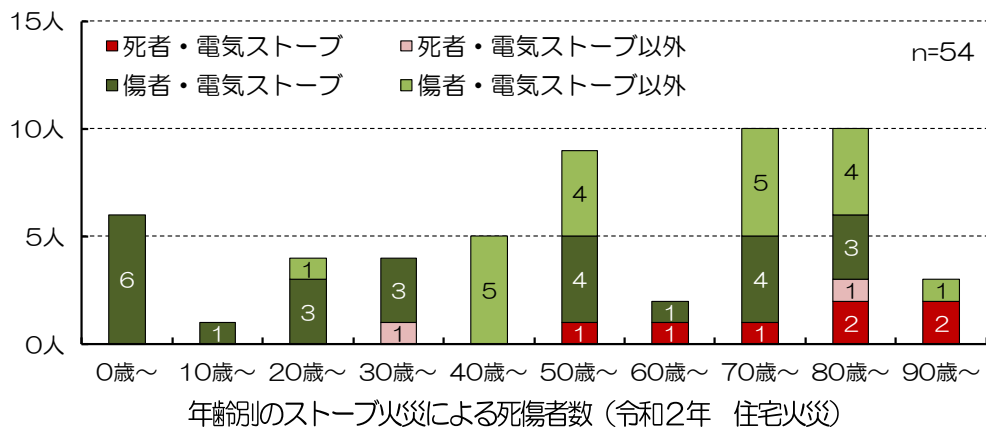


死傷者の発生状況

- ストープ火災による**死者は9人**で、このうち**7人は電気ストーブ**が出火原因となっています。また、50歳以上で死者が多くなっています。

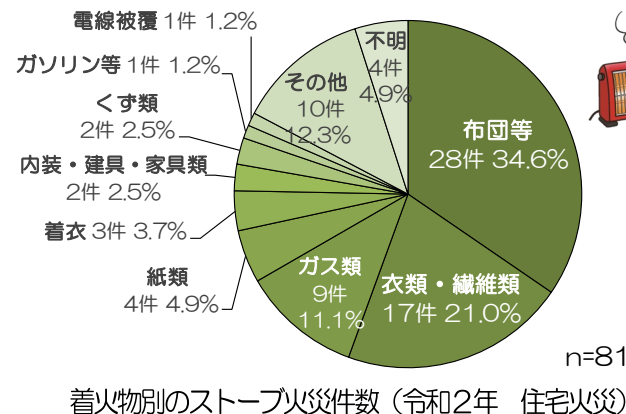


- ストープ火災による**傷者は45人**で、このうち約6割の25人は電気ストーブが出火原因となっています。**乳幼児を含む全世代**で傷者が発生しています。



ストーブの周りに物を置かない

- ストープ火災81件のうち、**布団類**や**衣類・繊維類**の可燃物に着火した件数が45件で、半数以上を占めています。
- ガス類（スプレー缶等）も着火物となり得ます。



- 可燃物とストーブが接触することや、ストーブ付近のスプレー缶等が高温になって破裂し、漏れたガス類へ引火することによって、火災が発生しています。
- ★ **ストーブの周りに物を置かない**ことが火災を発生させないポイントです。

